

学校組織における社会的勢力構造に関する理論的研究

鎌田 雅史 (幼児教育学科)

A theoretical study of the power structure in school organizations

Kamada Masafumi (Department of Preschool Education)

組織の本質を「協働体系 "cooperative system"」として捉えた、Barnard(1938)に端を発する協働論は学校組織に広く受け入れられ、これまで教員間の協働性について多様な議論がなされてきた(波多江, 2013)。本研究においては、上野(2012)に準じる形で、協働を「教員が“対等の立場”で“機能的な協力”を、共通の目的に対し“相互に”影響しあう過程」と位置付ける。教員の協働には、教員間の相互影響のプロセスが不可欠である。本研究は、教師の相互影響力の背景となる要因について、社会的勢力理論の視座から近年の理論研究の展望を行い、教員の協働を促進する勢力構造に関し考察する。

キーワード：社会的勢力 協働 学校組織構造

1. 学校組織の特殊性と、教員間の協働の重要性

近年、学校組織における協働の重要性(i. e., 佐古, 2006)や、教員と外部の専門家との協働(i. e., 荊木・淵上, 2012)に関する重要性が強く指摘されている。

波多江(2013)は、戦後、教育の効率性を重視する考えから「学校」を「組織」とする捉え方がひろまり、Barnard(1938)の協働論に依拠した吉本(1964)の見解を経て教員は協働すべき集団であるという見解が出現したとしている。“きょうどう”という言葉は、協働、共同、協同など、様々な語義が当てられるが、経営学や教育経営学の領域において、協働と表記した場合、Barnard(1938)の理論に依拠する事項を差し、「共通の利害関心をもつ人々が共通の目的のために機能的な協力をする(上野, 2012)」と定義される(c.f., 波多江, 2013)。また、当事者は、対等な資格をもって協働に参加することが前提となる。以上より、本稿においては、学校組織における協働とは教員が“対等の立場”で“機能的な協力”を、共通の目的に対し“相互に”影響しあう過程と操作的に定義する。協働の概念には、本質的に組織内協働および、組織間協働が含まれる(波多江, 2013)

学校組織において、教員の協働の重要性が特に取りざたされる理由の一つとして、他の組織と比較した場合に、学校組織が有する特異性が挙げられる。

1) 学校組織構造の特異性